

# NEWSLETTER

The Japanese Association for Arid Land Studies

## 日本沙漠学会 緊急ランチオン・ワークショップ 「東日本大震災への沙漠技術による支援」開催報告

平成23年5月29日 11時50分～13時  
日本沙漠学会22回学術大会会場(東京農業大学)

平成23年3月11日の「東日本大震災」被災者各位には、心よりお見舞い申し上げます。

日本沙漠学会では学術大会開催時に、この未曾有の大災害からの復興に向けた学会の果たす役割等について、当初プログラムになかった緊急のワークショップを昼食休憩時間を活用して開催しました。ここで、現地の問題を共有して、学会が地域復興の支援に果たせる役割の検討を行うこととしました。

この発端は日本沙漠学会乾燥地農学分科会でこの大震災を克服し、復興を速めるために、沙漠に関わる科学技術を活かすべしという議論があったことでした。

今回の緊急ランチオン・ワークショップでは、先ず乾燥地農学分科会の杉本英夫幹事から宮城県沿岸の農作地帯の被害状況の報告があり、次いで福島原発の放射能汚染への対応を牛木久雄理事から問題提起し、意見交換を行いました。

### 《話題提供：宮城県沿岸の農作地帯の被害状況》

4月末に仙台平野の農地の津波被害状況を調査した結果が報告されました。現地では、微地形の影響や高速道路の存在によりガレキがせき止められるなど被害の程度が違うことが紹介されました。また、地震で地盤沈下した農地では、底泥などが厚さ10cm程度も堆積し、



名取市：農地



亶理町：農地

1ヶ月半後においても冠水状態が続いており、農地の排水機能が失われ、除塩困難のため、塩害の発生が予想されました。

(写真参照)

### 《問題提起：放射性物質の拡散による被害状況》

福島第一原子力発電所事故に伴う放射性物質の拡散範囲は、およそ判ってきましたが予断を許さない状態が続いていることが報告されました。被害を最小限に止め、地域の生活を安定させるためには、科学的知見に基づく正確な情報提供が欠かせないことが提起されました。

### 《総括》

会員の成果をレビューして有用な情報を公開するなど、可能な支援方法を模索していくことが確認されました。

理事・評議員 牛木久雄  
乾燥地農学分科会幹事 杉本英夫



山元町：排水機場



山元町：農地

津波被害を受けた宮城県の農地等の状況  
(2011年4月27日撮影：株式会社大林組)